

平成25年度 事業計画書

社団法人日本スポーツ吹矢協会

(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

I. 事業方針

社団法人日本スポーツ吹矢協会(以下、本協会という)は、国民の健康増進に寄与するために、さらに行政との協力体制の強化を図り、スポーツ吹矢の普及と啓発を推進していく。また今年度は一般社団法人へ移行を行うが、将来の公益法人の認可を目指し、本来の目的である公益事業としてのスポーツ吹矢の活動を大いに推進し、体質改善を進める。そのために、以下のような事業活動を計画、実行し会員増強を目指す。

II. 事業内容

1、スポーツ吹矢の普及・振興

1) 新規入会

平成25年度の新規入会者数は、5,000名を目標とする。(平成24年度予測は4,200名)

2) 強化地域の選定及び普及への取り組み

スポーツ吹矢の普及が遅れている地域、伸び率の良くない地域を選定し、普及・拡大に取り組む。

(1) 強化地域の選定

県組織が出来ていない県、会員数の少ない県、伸びが見られない県などを選定し特別強化地域とする。

(2) 強化地域に対して普及の対策を練り、メディアや行政機関に働きかけ、会員を増やしながら、地域の人材育成を行う。

3) 会員レベルの向上と地方組織の更なる強化

前年度に引き続き、地域ごとの目標を明確にし、市区町村協議会の設立の促進を行うとともに、県別の地域支部長・公認指導員の勉強会を開催し、基本動作の徹底と会員の技術及び知識レベルの向上を目指し、会員の健康

増進とキメ細かなサービスの提供を図る。また、地方組織ごとに普及・振興のための活動が行えるよう、活発な人材派遣を行なっていく。

(1) 全国ブロック長会議の定例開催

理事会・社員総会での決定事項等、本協会の活動方針を地域に浸透させていくために、社員総会開催日に、全国ブロック長会議を定例開催する。

(2) ブロック別都道府県会長会議の開催

ブロック長を中心としたブロック別の「都道府県会長会議」を定例開催する。(年2回)

(3) 都道府県別指導者勉強会の実施

日常的な活動及び普及・教育を促進するための公認指導員の勉強会や、地域支部長を対象に地域支部運営に的を絞ったマニュアルの講習や具体的なノウハウ等の資料を作成し、都道府県別に勉強会を行い、組織の活性化を図る。また、普及のための体験会や効果の高い体験講座の成功事例の共有化と実施を促進する。
この勉強会の具体的な実践のために「公認指導員3年次資格更新研修会」を各県あるいはブロックで開催できるような仕組みづくりを行う。

(4) 市区町村スポーツ吹矢協議会の推進

効率的かつ組織的な普及・振興を図るため、地域支部が複数ある市区町村にスポーツ吹矢協議会の設立を促進していく。当該市区町村のレクリエーション協会、体育協会をはじめ、行政、学校、施設等と連携をとり、スポーツ吹矢体験会やスポーツ吹矢教室等を開設し、スポーツ吹矢を地域住民の健康促進、生きがいつくりの媒体として地域に根付かせる。

(5) 体験会実施のためのより積極的な支援体制の強化

特定地域を中心に体験会用の筒・矢等の用具を本協会より提供し、支援体制の強化を図る。

(6) 「スポーツ祭東京2013」第68回国民体育大会デモンストレーションスポーツとしてのスポーツ吹矢大会の成功

東京都スポーツ吹矢協会が主管で行う「スポーツ祭東京2013」第68回国民体育大会デモンストレーションスポーツとしてのスポーツ吹矢大会を全面支援し、成功させる。

(7)平成 27 年度「2015紀の国わかやま国体」第70回国民体育大会デモンストレーションスポーツとしてのスポーツ吹矢の支援

平成 27 年度に開催予定の「2015紀の国わかやま国体」第70回国民体育大会にデモンストレーションスポーツとして参加が決定したことを受け、社団法人日本スポーツ吹矢協会としてこの成功に向けて和歌山県スポーツ吹矢協会を支援する。

(8)平成 28 年度「2016希望郷いわて国体」第71回国民体育大会デモンストレーションスポーツとしてのスポーツ吹矢の支援

平成 28 年度「2016希望郷いわて国体」第71回国民体育大会デモンストレーションスポーツとして岩手県で実施候補競技として決定したことを受け、社団法人日本スポーツ吹矢協会として岩手県スポーツ吹矢協会を支援する。(正式決定は 6 月予定)

(9)スポーツ吹矢館を会員のスポーツ吹矢の練習、昇級・昇段試験、各種研修、交流の場として運営を継続する。又、スポーツ吹矢の歴史的な資料等を展示し、スポーツ吹矢資料館としての機能を併せもたせる。

4)地域支部設立数の目標

平成 25 年度の地域支部設立数は、150支部を目標とする。
(平成 23 年度146支部、平成24年度125支部・・・予測)

5)会員レベルの向上と指導員の育成

(1)スポーツ吹矢における会員の技術レベルの向上と、指導者づくりのために、平成 25 年度の段・級位認定者の目標を以下の通りとする。

級位認定者	：	5,950 名
段位認定者	：	7,000 名
ジュニア	：	270 名
合計		13,220 名(前年比110%)

(2)六段昇段試験は昨年同様6月と10月の2回実施する。但し、受験は1人、

年に1回のみとする。

6) 屋外で行うスポーツ吹矢の確立

- (1) 屋外で行うスポーツ吹矢について協会としての方針を確立し、競技ルール、用具、会場等について具体化していく。

2、スポーツ吹矢の競技大会の開催(開催順)

1) 第7回スポーツ吹矢「青柳杯」大会

三段以上の高段位者を対象とした競技会

男女別に予選を行い、それぞれ上位8名で決勝トーナメントを戦って青柳杯を競う。今回より、トーナメントでは基本動作を得点化し加点する。

開催日：平成25年4月24日(水)

会場：東京・墨田区「墨田区総合体育館」

参加者：600名(予定)

収入 単位:円

項目	金額	備考
参加費	2,400,000	@4,000×600名
協賛金	50,000	
合計	2,450,000	

支出

会場費	300,000	
用具・備品・その他	1,200,000	
謝金・交通費	600,000	
会報編集費(報知)	200,000	
雑費	150,000	
合計	2,450,000	

2) 第1回新・スポーツ吹矢フェスティバル(仮称)

会員及び一般の人を対象としたフェスティバルを東京体育館で行う。

開催日 : 平成25年6月12日(水)
 会場 : 東京都・渋谷区「東京体育館」
 参加者 : 300名(予定)

収入 単位:円

項目	金額	備考
参加費	0	
協賛金	100,000	
協会負担金	800,000	
合計	900,000	

支出

会場費	300,000	
用具・備品・その他	200,000	
謝金・交通費	200,000	
会報編集費(報知)	200,000	
合計	900,000	

3) 第5回スポーツ吹矢ジュニア競技会

ジュニア会員対象とした競技会を開催する。

開催日 : 平成25年8月4日(日)
 会場 : 有明スポーツセンター
 参加者 : 70名(予定)

収入 単位:円

項目	金額	備考
参加費	35,000	@500×70名
協賛金	50,000	
協会負担金	275,000	
合計	360,000	

支出

会場費	85,050	
用具・備品・その他	180,000	
謝金・交通費	70,000	
雑費	24,950	
合計	360,000	

4) 第6回全国障がい者スポーツ吹矢競技会

障がい者会員を対象とした競技会を、スポーツ祭東京2013(東京国体)の一環である「第13回全国障害者スポーツ大会」のオープン競技のひとつとして開催する。

開催日 : 平成25年10月14日(月)

会場 : 東京都・江東区「BumB 東京スポーツ文化館」

参加者 : 180名(予定)

収入

単位:円

項目	金額	備考
参加費	360,000	@2,000×180名
協会負担金	190,000	
合計	550,000	

支出

会場費	300,000	
用具・備品・その他	140,000	
謝金・交通費	50,000	
雑費	60,000	
合計	550,000	

5) 第2回全日本スポーツ吹矢選手権大会

各都道府県からの選抜選手の大会。今回より種目のなかに級位者の部も設ける。10m部門の最高得点者には日野原杯が授与される。

開催日 : 平成25年11月7日(木)

会場 : 東京都・墨田区「墨田区総合体育館」

参加者 : 1,000名(予定)

収入

単位:円

項目	金額	備考
参加費	4,000,000	@4,000×1,000名
協賛金	50,000	
合計	4,050,000	

支出

会場費	300,000	
用具・備品・その他	1,800,000	
謝金・交通費	700,000	
編集費	200,000	
雑費	100,000	
合計	3,100,000	

※収支差額は、スポーツ吹矢フェスティバル・障がい者競技会・ジュニア競技会及び、新春・吹き初めの会の費用にあてる

6) 第14回新春吹き初めの会

開催日：平成26年1月5日(日)

会場：紙パルプ会館・フェニックスホール

参加者：70名(予定)

収入

単位:円

項目	金額	備考
参加料	210,000	3,000×70名
協賛金	100,000	
協会負担金	450,000	
合計	760,000	

支出

会場費	400,000	備品レンタル料含め
飲食費	360,000	
合計	760,000	

3、(上級)公認指導員の養成及び認定

- 1) 平成 25 年度の上級公認指導員の認定については、平成 25 年7月及び平成 26 年2月の2回、全国 5 ヵ所(予定)にて開催する。
平成 25 年度の上級公認指導員の認定は、155 名を目標とする。

上級公認指導員資格認定試験

収入

単位:円

項目	金額	備考
参加費	1,550,000	@10,000×155名
協会負担金	0	
合計	1,550,000	

支出

会場費	300,000	年2回分
交通費・運送料	550,000	年2回分
資料代	150,000	年2回分
合計	1,000,000	

- 2) 平成 25 年度の公認指導員の認定については、5月、11月の年2回、全国 10 ヵ所(予定)にて開催する。
平成 25 年度の公認指導員の認定は、280 名を目標とする。

公認指導員資格認定試験

収入

単位:円

項目	金額	備考
参加費	2,800,000	@10,000×280名
協会負担金	0	
合計	2,800,000	

支出

単位:円

会場費	350,000	年2回分
謝金・交通費	500,000	年2回分
備品・消耗品	400,000	バッジ・DVD など
送料	400,000	
予備費	150,000	
合計	1,800,000	

4、(上級)公認指導員の教育

- 1) 指導員のレベルの維持、向上のために公認指導員は3年ごと、上級公認指導員は5年ごとに資格更新研修会を各都道府県で開催する。これまでは人数的な理由や開催能力の問題等で地域によってばらつきがあったが、3年次資格更新研修会については実行しやすい流れを作り促進することで、1年を通して全国的に開催する。また、新たに上級公認指導員の5年次更新研修会を開催する。これらによって(上級)公認指導員の全国均一のレベルアップを図る。内容は日常的な普及活動等に有益な情報を共有する。成功事例、マスコミへのアプローチ、行政との話の進め方など実務的な内容の研修会とする。

5、Aライセンス制の定着化

- 1) スポーツ吹矢の普及・振興を目指すより多くの会員に、昇段審査権限の門戸を開くため、平成23年度から導入したAライセンス制を定着化させる。このことによって審査権限の範囲とともに昇級・昇段試験の受験機会の拡大を目指す。
- 2) Aライセンス認定試験を年2回行ない、取得者の拡大を図る。
- 3) Aライセンス試験の難易度が高いことから、平成24年度は会員全体の基本動作に関する意識が変わったといえる。平成25年度も更に全体の意識変革につなげていく。

6、国際交流の積極展開

- 1) 国際部よりハワイ総支部へ指導員を派遣し、交流を深めるとともに、昇段試験や基本動作の勉強会を通じてハワイ総支部のレベル向上を図る。
- 2) ハワイ総支部につぐ第2の海外支部としてタイのバンコクに新しく支部を立ち上げ、定着させ、日本との交流を図る。

7、スポーツ吹矢に関する腹式呼吸及び健康に関する研究調査

- 1) 学術研究部を中心に、スポーツ吹矢式呼吸法や基本動作と健康の関係を研究調査し、会報等で報告する。
- 2) 会員としてスポーツ吹矢を実践している多くの医師、歯科医、大学教授など

のスポーツ吹矢に関する研究・理論を、会報等を通してわかりやすく一般会員に知らせる。

- 3) 上記のような立場の知識人をスポーツ吹矢館に招きスポーツ吹矢とそれぞれの研究部門に関して講習会を開催する。

8、その他、目的を達成するために必要な事業

- 1) 人々の心身の健康維持・増進を目的として、高齢者、障害者、青少年などを対象に、各地で体験会を開催し、スポーツ吹矢の楽しさを広く社会に伝え、高齢者、障害者等の社会参加のきっかけづくりに寄与する。また公益事業の目的で行政や企業・団体の要請に応じて、積極的に体験教室等を開催する。

2) ジュニア育成部の活動

1. 事業計画

- (1) ジュニア向けの普及を目的に第5回ジュニア競技会を開催する。
- (2) ジュニア向けのレッスンを銀座教室で行う。(隔月・奇数月)
- (3) ジュニア向けの体験会のやり方や学校、教育委員会、児童施設向けの普及の方法等をマニュアル化しジュニア指導者の育成を行う。
- (4) ジュニア会員が楽しめるスポーツ吹矢のゲームを研究し、会報等で公表する。
- (5) ジュニア競技会以外の行事を立案し、小学校の体育館などを借りて、ジュニア会員はもとより、一般の子どもたちにもスポーツ吹矢を体験してもらえる機会をつくる。
- (6) ジュニア育成部として用具を購入し、体験会やイベントに役立てていく。

2. 予算(競技会以外)

用具購入	200,000 円
交通費	400,000 円
予備費	100,000 円
合計	700,000 円

3) 障がい者サポート部の活動

1. 事業計画

- (1) 障害者の社会参加・スポーツ振興を目的とし、身体障害者、知的障害者、精神障害者を対象に、各市区町村と連携をはかりながらスポーツ吹矢体験会等を開催する。
- (2) 各都道府県協会に障がい者サポート部か担当者を必要に応じて設置す

- る。
- (3) スポーツ祭東京2013(東京国体)の一環である「第 13 回全国障害者スポーツ大会」のオープン競技のひとつとして「第 6 回全国障がい者スポーツ吹矢競技会」の開催を中心となつて行う。
 - (4) 障害者へのスポーツ吹矢の指導について各地で勉強会を開催し、多くの指導員を育成する。

2. 予算(競技会以外)

用具購入作成	200,000 円
交通費	400,000 円
予備費	200,000 円
合計	800,000 円

4) 広報部

- 1. 方針 設立 15 周年、国体デモスポ参加を機に、社内外へのコミュニケーション活動の活発化を図り、競技及び団体の普及・振興活動に繋げる。

2. 事業内容

(1) 会報の発行

会員向け会報の発行は年 10 回(1・2月合併、7・8月合併)とする。一般向けには年に 1 回、普及版(会報抜き刷り対応)を発行する。

(2) ホームページの運用強化と<会員専用ページ>のリニューアル

ホームページの活用による一般向け情報発信機能の強化と<会員専用ページ>による会員情報の共有・効率化を図るため、リニューアルによるさらなる有効活用を推進する。(平成 24 年度から継続中)

(3) 普及ツールの新規・リニューアル制作

企業(企業 OB 会)向け普及チラシ、公認研修所「スポーツ吹矢館」の案内チラシ等の新規制作及びポスターのリニューアル制作を行う。

(4) 教育部と協力して公認指導員用 DVD のリニューアル制作を行う。

内容変更に伴い、平成 25 年度公認指導員認定者から採用する。

(5) 企業との取組み強化

「健康」をテーマに掲げる企業との取組み強化により、社会貢献活動の領域拡大を図る。

(6) その他

行政や学校等の団体への継続的な普及・広報の活動を行う。

5) 普及部の活動

1. 方針 (社)日本スポーツ吹矢協会の理念並びに実技に精通し、スポーツ吹矢を広く社会に普及、啓発していくとともに、ブロック長や都道府県会長の普及活動を支援、推進する。
2. 事業計画
 - (1) 会員数の少ない地域、会員数の伸びない地域など強化地域を決め、地域ごとにてこ入れをして、会員増の流れを作る。
 - (2) 各県や地域支部で体験会・体験教室が行なえるよう、教育部と連動しノウハウをまとめ、マニュアル化する。
 - (3) 上記体験会・体験教室の運営を支援する。
 - (4) 銀座教室を中心に、段級位認定試験や体験会、基本動作教室等を積極的に開催する。また全国各地のカルチャー教室も新規開拓を含め拡充していく。
 - (5) その他
3. 予算

交通費	700,000 円
予備費	300,000 円
合計	1,000,000 円

6) 教育部

1. 方針 (社)日本スポーツ吹矢協会の理念並びに実技に精通し、スポーツ吹矢を広く社会に教育、啓発していくとともに、スポーツ吹矢の指導者である(上級)公認指導員の指導、育成を目指す。
2. 事業計画
 - (1) 教育部会議を原則月1回、首都圏を中心に開催
 - (2) 公認指導員資格認定試験(5月、11月)、上級公認指導員資格認定試験(7月、2月)、Aライセンス認定試験(8月、2月)の実施
 - (3) 年2回、各都道府県で行なわれる公認指導員3年次資格更新研修会の推進、支援
 - (4) 上級公認指導員5年次資格更新研修会の推進、支援
 - (5) 上記試験、研修会のマニュアル作成
 - (6) 各都道府県で開催される公認指導員や地域支部長の勉強会に、積極的に参画し、ブロック長や都道府県会長を支援、補佐する。
 - (7) その他
3. 予算

資料	300,000 円
交通費	900,000 円
合計	1,200,000 円

7) 収益事業の拡大

- (1) 収益事業の一環として、吹矢手帳や新たにキャラクターグッズなどの製作・販売を行う。
- (2) 商標権、著作権等を使った収益構造を模索する。

8) 公益事業としての「スポーツ吹矢館」

公益事業のひとつとして、スポーツ吹矢館を一般の方々に開放し、初めてスポーツ吹矢を体験したり、学ぶ場として使う。

9) その他

- (1) 将来の国体の正式種目を目指し、公益財団法人日本体育協会への加盟手続きを進める。
- (2) 東日本大震災の被災会員には平成 23 年度及び平成 24 年度に引き続き状況に応じて、年会費・公認指導員更新料を免除する。
- (3) 一般社団法人へ移行する。
- (4) 将来、公益社団法人を目指すことを踏まえ、そのための会員増強と堅固な財政基盤の確立を目指すとともに、公益法人の遵守事項である「収支相償」「公益目的事業比率が50%以上であること」「遊休財産規制」をクリアできる体制作りを進める。
- (5) SFA(JAPAN SPORT FUKIYA ASSOCIATION 略)、心技練磨等の商標登録を進める

以上

25年度行事予定表					
日付			時間	行事名	会場
4月 _{H25}	10日	(水)	13:30	支部長面談	協会事務局会議室
	24日	(水)	9:00	第7回青柳杯大会	墨田区総合体育館
5月	15日	(水)	13:30	支部長面談	協会事務局会議室
	25日	(土)	10:00	公認指導員資格認定試験	全国10会場
	26日	(日)	10:00	公認指導員資格認定試験	全国10会場
6月	8日	(土)	10:00	六段試験	銀座教室
	12日	(水)	9:00	タイトル未定競技会	東京体育館
	14日	(金)	10:00	六段試験	銀座教室
	19日	(水)	13:30	支部長面談	協会事務局会議室
	20日	(木)	10:00	理事会	銀座教室
			13:30	社員総会	銀座教室
			16:00	ブロック長会議	銀座教室
7月	13日	(土)	10:00	上級公認指導員試験	全国10会場
	17日	(水)	13:30	支部長面談	協会事務局会議室
8月	4日	(日)	9:00	第5回ジュニア競技会	有明スポーツセンター
	21日	(水)	13:30	支部長面談	協会事務局会議室
	24日	(土)	10:00	Aライセンス試験	受験者数によって設定
9月	18日	(水)	13:30	支部長面談	協会事務局会議室
	21日	(土)	9:00	東京国体デモスポ	多摩市総合体育館
10月	14日	(月)	9:00	第6回障がい者競技会	BumB東京スポーツ文化館
	16日	(水)	13:30	支部長面談	協会事務局会議室
	19日	(土)	10:00	六段試験	銀座教室
	25日	(金)	10:00	六段試験	銀座教室
11月	7日	(木)	9:00	第2回全日本選手権大会	墨田区総合体育館
	16日	(土)	10:00	公認指導員資格認定試験	全国10会場
	17日	(日)	10:00	公認指導員資格認定試験	全国10会場
	20日	(水)	13:30	支部長面談	協会事務局会議室
12月	18日	(水)	13:30	支部長面談	協会事務局会議室
1月 _{H26}	5日	(日)	10:00	第14回吹き初めの会	紙パルプ会館フェニックスホール

	22日	(水)	13:30	支部長面談	協会事務局会議室
2月	8日	(土)	10:00	Aライセンス試験	受験者数によって設定
	15日	(土)	10:00	上級公認指導員試験	全国10会場
	19日	(水)	13:30	支部長面談	協会事務局会議室
	21日	(金)	10:00	理事会	銀座教室
			13:30	社員総会	銀座教室
			16:00	ブロック長会議	銀座教室
3月	19日	(水)	13:30	支部長面談	協会事務局会議室